

**川崎市総合計画市民検討会議 第5回全体会
議事録**

日 時 平成27年7月12日(日) 9:30~12:10

会 場 川崎市役所第3庁舎15階会議室

出席者

委 員 磯崎コーディネーター、荻原委員、小山委員、外山委員、青柳委員、加藤英雄委員、
新富委員、川島委員、馬場委員、松本委員、岡田委員、飯田委員、片山委員、
長谷川委員、加藤浩照委員、辻委員、長野委員、小池委員、山下博子委員、
後本委員、加藤美於委員、山下千裕委員

市 側 福田市長、瀧崎総合企画局長、唐仁原都市経営部長、久万企画調整課長、
阿部企画調整課担当課長、宮崎企画調整課担当課長

- 議 題 1 第5回有識者会議について
2 新たな総合計画素案策定資料について

公開及び非公開の別 公開

議事

開会

(司会 唐仁原都市経営部長)

おはようございます。まだお見えでない委員の方もいらっしゃいますが、定刻になりましたので、これより川崎市総合計画市民検討会議第5回全体会を開催させていただきます。進行を務めます都市経営部長の唐仁原でございます。よろしくお願いたします。

資料は事前にお配りさせていただきました。開催に当たりまして2点ほどご連絡でございます。この会議は、会議の公開に関する条例に基づきまして公開とさせていただいております。会議の傍聴と取材を許可しておりますので、ご了承をお願いいたします。また、本日の発言につきましても、議事録の確認をお願いした後、ホームページに公開をさせていただきます。

それでは、開会に当たりまして、福田市長よりご挨拶を申し上げます。

(福田市長)

おはようございます。日曜日の朝早くから、お集まりをいただきまして、本当にありがとうございます。

今日はまず、先日、有識者会議へ6名の方にご参加をいただきましたが、その6名以外にも、熱心に傍聴という形で参加していただいた委員もいらっしゃいまして、その報告をいただくとい

うこととございます。それから、今日が市民検討会議の最後と予定しておりますので、皆様からいただきました意見を反映した素案を作成しておりますが、最終的に忌憚のないご意見をいただければと思っております。

一昨日、最後の有識者会議が行われ、有識者の皆さんから、今回の総合計画のつくりは他の自治体に例を見ない形であったとコメントを頂きました。それは何よりも市民の皆さんに一番最初から加わっていただいた、そして、「市民から市民へのメッセージ」をはじめとして、全く今までの自治体にないつくりになったということに、参加された市民の皆さんに心から敬意を表したいということ、皆さん言われておりました。そういった意味では、非常にチャレンジングな取組であったと思います。最初に、各区で無作為抽出ワークショップが始まったのは昨年7月で、それから約1年かけてこのような会議を繰り返してきました。私ども行政としても未知への挑戦でしたが、本当にすばらしい形で積み上げながらできたのではないかと考えております。特に、「市民から市民へのメッセージ」の一言一句の言葉の大切さというものを皆さんが共有しながらできたことが、感慨深く思い出深いものになったと考えています。今日一日、短い時間ではありますが、皆さんで最終的につくり上げてまいりたいと考えております。

この総合計画の策定にあたっては、具体的な実施計画が重要ですので、今月末には議会に素案をお示しして議論いただいて、予算の関係等を調整して、実施計画段階に移ってまいります。ここでつくっていただいたものは、本当にやらなければ絵に描いた餅になるわけでありますから、この基本構想、基本計画に基づいてしっかりとやっていきたいとお誓い申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いたします。

(司会 唐仁原都市経営部長)

それでは、ここから議事に移りますので、進行を磯崎先生にお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

(磯崎コーディネーター)

皆様、おはようございます。大変な猛暑の中、また貴重な日曜日の午前中に、この会議に参加いただきましてありがとうございます。

今も市長からお話がありましたとおり、今回は第5回目ということで、最後の全体会になります。この間、テーマ別の部会も開催し、グループワークなどもたくさんやってまいりましたが、いよいよ最後のまとめでございますので、大変重要な機会になろうかと思います。後々思い残すことがないように、しっかりと議論をして、市長をはじめ、市の皆さんに引き継ぐという形で今日を締めたいと思いますので、どうかよろしくお願いたします。

本日の流れですが、お手元の次第にございますように、先日開かれました有識者会議の状況を、私も少し報告させていただきますし、出席された委員の方にも、短い時間ですが、ご報告をいただきたいと思っております。そして、今回は新たな総合計画の素案策定資料が出てまいりました。事前にお配りいただいたと思っておりますが、我々の提言がどのくらい反映されているか、こういうところが足りないのではないかと、といった意見なども出しながら進めていきたいと考えております。それから、こういう機会ですので、今回の総合計画に直接関係がなくても、たとえば今後の実施計

画に向けた提案や、市政の進め方・施策について、ご意見をいただくような時間も取りたいと思っております。最後ですので、全員の委員にぜひご発言いただこうと思っております。充実した会議にしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。それでは、まず事務局から第5回有識者会議につきましてご説明をいただきたいと思ひます。

1 第5回有識者会議について

(阿部企画調整課担当課長)

おはようございます。企画調整課の阿部でございます。よろしくお願ひいたします。

最初に、第5回有識者会議について、前回の市民検討会議からの状況をまとめてご報告したいと思ひます。

資料1をご覧ください。第4回の市民検討会議全体会が4月25日でございます、このときに市民検討会議のまとめを最終的に皆さんでご確認いただきながら、「市民から市民へのメッセージ」の部分を書文していただくという作業を行いました。記録につきましては、参考資料の1から3まで添えてございますので、そちらは別途ご覧いただければと思ひます。

作業していただきました「市民から市民へのメッセージ」を、ここで改めて確認をしたいと思ひますので、資料2をご覧いただけますでしょうか。第1章、第2章につきましては前回ご確認いただいたとおりでございます、43ページからが「市民から市民へのメッセージ」になります。皆さんのグループに分かれての書文作業を踏まえまして、磯崎先生とも最終的に調整させていただきまして、こういった形で完成させていただきました。43ページの下段ですが、ここに各テーマを通じて共通する最も大切なメッセージといたしまして、多世代が参加する地域コミュニティをつくろうということで、共通メッセージとして掲げてございます。

内容ですが、2つ目の段落をご覧いただければと思ひますが、超高齢社会を生き生きと暮らすためにも、次代を担う子どもを安心して育てるためにも、地域における支え合いや交流が欠かせません。災害から市民の命や暮らしを守り、そして、安全や快適なまちや交通環境をつくるためにも、地域コミュニティが重要です。この地域コミュニティをよりよいものとするためには、子ども、若者、子育てをする世代、シニア世代など、多世代が参加し、交流し、支え合うことが重要だということを書文してございます。こういった地域コミュニティをつくっていけるように、市民一人ひとりができることから始めましょうというメッセージを共通のものとして掲げております。中のほうをご覧いただきますと、テーマごとの個別のメッセージをまとめています。内容につきましては後ほどご覧いただきたいと思ひますが、こういった形で「市民から市民へのメッセージ」を確認させていただき、市民検討会議の意見のまとめとして完成させたものでございます。

資料1にお戻りいただきまして、本日、第5回の全体会でございます。本日は、基本構想・基本計画素案の原案をお示ししてまいります。この後ご確認いただきますのでよろしくお願ひいたします。そしてこの間、先ほど市長のご挨拶にもございましたが、6月12日には有識者会議にこの「市民検討会議意見のまとめ」を携えまして、磯崎先生と5人の委員の方にご参加いただいたところです。その記録が参考資料4でございます。1枚めくっていただきまして、2ページからが記録になっておりまして、「4.第4回会議の開催結果について」として、まず、「市民検討会議

意見のまとめ」についてご報告をさせていただきました。ここでは磯崎先生から「市民検討会議意見のまとめ」について、全体をご報告いただきまして、一緒に参加していただきました市民委員の皆さんから、各分野におけます「市民から市民へのメッセージ」をご報告いただきました。

議題の2つ目としましては、市民自治に関する本市の取組ということで、市からのご報告と、質疑という流れです。まず「市民検討会議意見のまとめ」について、有識者の皆さんから意見をいただきました。最初のところでは、同じ市民から提案されたものであるため、市民のアクションにつなげる力を持っているのではないかというご意見、それから2つ目には、市民検討会議は自助・共助を重視した議論をしており、川崎市民の意識の高さはすばらしい、だからといって行政はそこに甘えて市民に委ねておけばよいということではなくて、このメッセージの中から行政がやるべきことをしっかり読み取って取り組んでいく必要があるというご意見をいただいております。続いて市長からは、市民検討会議では毎回ワーディングに非常にこだわりを持った深い議論をしていただいたので、この言葉に行きついた議論の過程も含めて大切にしたいということをお願いしております。

次のページに移りまして、第2章の各テーマにおけるグループディスカッションの意見、全ての意見を網羅した部分について、大切な意見、アイデアが含まれているというご意見をいただいております。

次に、市民自治についての議論の中で幾つか意見をいただきましたので、ご報告したいと思います。最初に、地域コミュニティの活性化に向けて必要な視点や取組については、互助はお互いの顔が見えやすく相互関係が濃密であり、人と人との関係や助け合いのための互助の概念が必要だという意見をいただきました。また、コミュニティづくりにはハード、ソフト両面での求心力が必要であって、ハード面は、例えば町内会館や小学校など公共・公益施設の活用戦略のようなものが重要になるという意見も頂きました。一方で、ソフト面については、交流するためにはやはりテーマがないとなかなか交流しにくいということで、テーマ設定の重要性についてご意見をいただいております。それから、担い手として、市民性、シチズンシップを育成することが大事であるというご意見や、地域のコーディネーターやリーダーを育成する必要があるということで、地域人材の視点からのご意見を頂きました。

4ページをご覧くださいでしょうか。次に、町内会・自治会の活性化に必要な取組ということで、幾つかご意見をいただいたのですが、活性化の重要性と取組の難しさについて意見交換されております。それから、最適なコミュニティの単位について、望ましいコミュニティユニットについては、小学校区や中学校区単位というように一律に決めることはできないのですが、どれくらいが適切かという目星をつけることは必要だというご意見がありました。

次に、区役所の役割や機能について、コミュニティと向き合う行政機関としての区役所の役割機能として、地域内分権を進めるべきであるという意見がありました。その際、行政区単位では大き過ぎるので、行政区を地域に区分して、地域自治ができる仕組みとしての町内会・自治会、例えばPTA、社会福祉協議会などが連携して会議をするような組織があるとよいといった提言を関連していただいております。

「市民から市民へのメッセージ」のほかに、こういったやりとりがあったということも含めて、有識者会議のご報告をさせていただきました。私からの説明は以上でございます。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。有識者会議では、我々市民にとって身近なコミュニティや市民自治の問題について議論したということでありました。

では、この会議にはわれわれも参加させていただきましたので、最初に私から報告させていただいて、その後、ご出席いただいた5人の委員の方々からご報告いただければと思います。

まず私から、この有識者会議でどういう報告をしたかということですが、お手元の「市民検討会議の意見のまとめ」をご覧くださいませでしょうか。既に阿部課長からご報告があったとおりでありますが、この意見のまとめの全体構成を私からご紹介いたしました。第3章までございますが、第1章については、分野別に毎回グループワークも含めて自由な討議をしてきており、その中から重要な内容を抽出するとともに、それぞれキーワードを出して、この辺がポイントだということをもとめたのが第1章である、という説明をいたしました。ここがいわば報告書の本体部分になるという説明をいたしました。

それから第2章は、グループワークの中でも特に重要な意見が出てまいりましたので、それらを大きくくり、表形式にまとめ、第1章を補うものとして載せているものだと説明しました。第3章は、「市民から市民へのメッセージ」ということで、これが我々の工夫した部分ですが、総合計画に向けた内容だけではなく、市民自身が実践することが大事だということでこの章をつけ加えたということの説明をいたしました。まず全体の構成を説明したわけです。

次に第3章については、前回からの課題になっていた部分がありますので、ここで合わせてご報告したいと思います。43ページをお開きいただけますでしょうか。先ほど阿部課長からもご説明いただきましたが、第3章の各セクションの記載は、皆さんにグループごとにご検討いただきました。グループの中には、文章自体を自分たちで決めていったグループもありましたし、時間の関係でポイントだけを協議して決めて、文章化は事務局にお願いしたグループもございました。それらをまとめたのが44ページ以下ですが、その前に共通部分をまとめたほうがよいというご意見があり、私と事務局に任せていただいて記載しましたので、報告しておきます。

43ページでは、まず自助・共助・公助という3つの言葉をどのように定義するか、記載しておいた方がよいという意見がありました。これは第1章にも書かれているのですが、第3章の冒頭にも定義を記載して、自助・共助が重要である旨を載せました。

2つ目は、この章「市民から市民へのメッセージ」を加えた趣旨を記載したのですが、今後、自助・共助を中心にして市民が実践すべきことが多いことから、それを我々のメッセージとして書いたものであるということに記載しました。といっても、押しつけになってはいけませんので、一緒に行動に移していきましょうという表現としてまとめさせていただきました。

3つ目は、各テーマ・メッセージに共通する部分として、地域コミュニティをしっかりとつくりたいという内容を記載しました。その際には「多世代」というのがキーワードではないかという議論もありました。これも全体にまたがることですので、冒頭に書いておくこととし、若者などを含めて多世代が参加し、交流し、支え合うということを入れたところがございます。

この「意見のまとめ」は一応完成とご理解いただきたいと思います。もし誤字脱字等、直せるようなものがありましたら、個別にご指摘をいただければと思っております。

私から総括的にご報告をいたしました。それでは、片山委員から順番に、有識者会議にご出席された5名の委員の方、それぞれ1分程度でご報告いただけますでしょうか。

(片山委員)

片山でございます。私たちのグループは社会福祉の分野を報告しました。私が意見として強調させていただいたのは、やはりいろいろなことを推進するに当たって、コーディネーターがいなくなかなか事が進まないということが1点です。それから、自助・共助については、これは有識者の先生方も当然認識されておられることではありましたが、その中である先生からの意見で、自助・共助といっても、一義的にはやはり公助、行政のプロモーションが必要だというご意見がありました。私もそれは正しいことだと思っていて、やはりきっかけづくりは行政でやっていただかなければならないのではないかと感じました。それからもう1つ、自助・共助の中で、共助というのは非常に漠然とした概念なので、先ほど阿部さんからありましたが、互助という言葉を大分強調されていたと認識しております。やはりこの互助が非常に重要だろうと感じました。以上です。

(荻原委員)

荻原でございます。子育て・教育に関する報告でございますが、市長と阿部課長と、それからコーディネーターの磯崎先生から報告のあったとおりでございます。私は4月25日の会合の内容を6月12日に発表するというので、二、三日前から復習しました。なぜ復習したかという、有識者会議の先生も感心していただいておりますが、松本さんほかグループの人たちによって、あれだけ25日にかんかんがくがく、活発な議論から出た非常にコンパクトなワーディングを、全部私が6月12日に伝えられるかという緊張感があったわけです。どういう工夫をしたかという、ワーディングで最初に読み上げるときにキーワードだけチェックしてくださいと申し上げて、特に強調して、これだけ報告するというように努めました。市長、阿部課長、磯崎先生が言われたとおり、市民のこの意見というのはすばらしい、こんなにしっかりと1個1個に心を込めてつくっていただいているということで評価を得たのではないかと思います。皆さん6人が6人とも熱心に報告していただいたわけですが、大変有意義な会合だったと思います。

(加藤英雄委員)

加藤です。私からは46ページの災害に関してご報告をさせていただきました。

どうしてこういうメッセージにしたのかという背景の部分を、我々のグループで議論した内容を中心に説明させていただきました。印象的だったのは、我々も有識者会議の方と話をしたいという要望をさせていただいて、先回、会議に参加させていただいたのですが、有識者の方にはかなり我々の意見を大切にさせていただいて、それをベースに議論していただいたということがはっきりわかりました。言いづらいかもしいかもしれませんが、座長から、前のひな壇にお座りの局長さんが詰められるようなシーンもあるぐらい、結構手厳しいご意見を有識者が、忌憚ない意見というか、ずばずばと言っていらっしゃるところがよくわかりました。あと、とてもうれしかったのが、冒頭、市長からありましたが、代表としてアサインされた我々メンバー以外の市民検討会議の方

も来ていただいたのが心強くて、非常にうれしかったです。私からは以上です。

(馬場委員)

馬場です。私は47ページと48ページの交通と暮らしについて報告させていただきました。

内容としては、どちらのテーマも公助に頼らなければいけないところがたくさんあるのですが、個人個人が意識することで始まるものもあるということをお話しさせていただきました。

特にこの2テーマについて具体的なコメントはなかったのですが、このほかに、先ほどお話がありましたように、地域のコミュニティの課題について提起させていただきました。かなり長い時間をかけていろいろな意見をいただいたりして、その課題に対しても共有できて、皆さんも考えてくださって、とてもありがたかったです。いろいろ話を聞いたり、有識者の方のお考え、こちらの意見を述べることで生まれてくるもの、考えが浮かぶものもたくさんあると思うので、もし今後、こういう機会がありましたら、ぜひそういういろいろな方々との交流もできる場があったらいいなと感じました。

(岡田委員)

私からは、文化、スポーツなどの川崎の魅力を生かしたシティプロモーションについてご報告をさせていただきました。報告の内容はこちらに書かれている内容そのものをご説明したのですが、私も片山委員と同じように、有識者の方々が自助・共助・公助の中でも、やはり特にこの文化とかスポーツのシティプロモーションの部分でいうと、市民だけが行えるものにも限界がありますので、公助としての市の役割が非常に重要なのではないかというご意見がありました。

私自身も市の役割が大きいとは思っていたのですが、こういった会に参加させていただくことで、一市民としても川崎市の取組に関して非常に興味を持てるようになりましたし、私自身も川崎市の価値を上げるようなプロモーションに少しでも貢献できたらと思いました。非常に勉強になりました。ありがとうございました。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。6人の出席された委員からご報告をいただきました。

全体として、報告だけでなく、テーマの「市民自治」についても我々もかなり意見を言って、有識者会議といいながら、合同の会議のような形で進められたという状況です。各委員がおっしゃったとおり、とてもいい機会だったなと私も思います。この間、それぞれ別々に検討を進めておきまして、随時、資料や議事録では報告し合っていました。一堂に会して肉声をお聞きするというのはとてもいい機会だったと思います。傍聴に来ていただいた委員の皆さんも大変ありがとうございました。我々、心強く感じておりました。

2 新たな総合計画素案策定資料について

(磯崎コーディネーター)

それでは、次の議題に入りたいと思います。新たな総合計画素案がいよいよ出てまいりましたので、この策定資料を中心に、事務局からご説明いただきたいと思います。

皆さんにおかれましては、我々がこの間、4回の全体会、それからそれぞれの部会で検討したことが盛り込まれているかどうか、一字一句盛り込まれるというのはなかなか難しいとは思いますが、その趣旨がしっかり盛り込まれているかという点を一緒に点検していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、久万課長、よろしくお願いいたします。

(久万企画調整課長)

企画調整課の久万です。これまでたくさんのご意見をいただきまして、本当にありがとうございました。今回、素案策定資料という形でまとめさせていただきましたので、分厚い資料になりますが、少しお時間をいただければと思います。資料3から資料6にかけて、少し簡潔にご説明させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

まず、資料3でございます。新たな総合計画素案策定資料ということでございまして、今回の素案のこれまでご討議いただいた内容を踏まえた考え方ですとか特徴について、簡潔にまとめさせていただいたものでございます。

1番の「策定プロセスの充実」ということでございまして、これまで市民検討会議あるいは有識者会議、議会等からいろいろご意見いただいたものを踏まえて策定させていただいたというものです。2番目の「素案の構成」につきましては、3章構成ということで総論と本編、そして参考資料となっています。こちらは別の資料で別途ご説明させていただきます。3番の「計画の主な特徴」ということでございまして、まず1点といたしまして、「成果を重視」ということで、こちら本編に書いてございまして、成果指標等を位置づけまして、市民に伝わる計画にしてまいりたいということで書いてございまして、その下の、「シンプルでわかりやすい」につきましては、今までかなり分厚い計画ということでございましたので、政策体系等を簡素化させていただいて、わかりやすくお示しいこうというものでございます。その下の「実行性の高い計画」ということで、引き続き事務事業を全て管理していこうということと、地域課題の解決に向けた計画等も示していこうという、この3点を主な特徴とさせていただきます。その下の「今後の予定」というところでございまして、今回の素案につきましては、金曜日に行われた有識者会議、そして今日の市民検討会議、こういったご意見等も踏まえまして、この後、今月、市議会にご提案させていただいた後に、パブリックコメントなどのご意見を踏まえたものを12月議会にかけさせていただこうと考えているところでございます。その後は、行財政改革に関する計画等と連携を図りながら、実施計画の検討を進めまして、来年、平成28年3月に新たな総合計画として策定してまいりたいと考えているところでございます。資料3については以上でございます。

次に資料4、新たな総合計画の素案策定資料のご説明をさせていただきます。今回の総合計画素案の策定資料ということでございまして、先ほど申し上げましたとおり、先日の有識者会議、本日の市民検討会議を踏まえまして、最終的には議会に上げさせていただきたいと思っておりますが、今回は策定資料ということでございまして、最初のページ1枚めくっていただきますと、今回、総合計画素案を皆様にご意見をいただくということで、ご意見募集のページが最初でございます。

その右側の目次でございまして、総論と、次のページが基本構想、基本計画、実施計画に掲げる目標及び指標ということで、こちらが本編になります。その次のページが参考資料ということ

で、これまでの計画の取組あるいは推進体制、アンケート調査等の内容が参考資料としてついでございます。次をめくっていただきますと、総論でございます。2ページをご覧いただきたいと思ひます。「計画策定の趣旨」ということで、こちらにつきましては、これまでも回を追ってご説明させていただきました計画の構成ですとか目標年次等について書いてございます。三層構造の基本構想、基本計画、実施計画という計画構成が3ページに書いてございまして、1枚めくっていただきますと、4ページからが「計画策定に当たっての基本認識」ということで、4ページ、5ページが人口の関係。6ページになりますと高齢者の増加。次に7ページが平均寿命、健康寿命や出生率など。捉えなければいけない課題を書いてございます。以降、8ページ、9ページが建物の老朽化ですとか経済関係、10ページは海外展開の事業者や市内総生産、11ページでは、川崎市が製造品出荷額で非常にすぐれていること、事業所数、事業者数については少し減ってきていること、それから12ページは、災害関係ということで、地震、災害のリスクについて、13ページは、降雨量が増えているですとか、気温が上昇しているといった課題、そして14ページは、たくさんご議論いただいたコミュニティが希薄化しているといったところがございまして、行政がしっかりコーディネートしながら、段階的に改善していきたいということで書いてございまして。そして15ページは、川崎のポテンシャルですが、こちらは充実した交通ネットワークについてのお示しと、次の16ページは、企業、研究機関の集積、また「音楽のまち」ですとか「スポーツのまち」といったこと。17ページには、川崎市の文化芸術資源ということで、音楽家の方が非常に多いですとか、文化施設入場料は全国でトップであるということが書いてございます。このあたりのポテンシャルと、18ページ、19ページは、捉えなければいけないチャンスということで、特区の関係ですとかオリンピックの関係を書いてございます。このあたりはこれまでもご説明させていただいた内容でございます。20ページ、21ページは、捉えなければいけないポイントということで、こちらも以前にご説明させていただいたところでございます。

そして、22ページからは、「都市構造、交通体系」ということで、これからのまちづくりというところでございますが、川崎駅、武蔵小杉駅などの広域拠点を引き続き整備していくということに加えて、超高齢社会を見据えまして、身近な地域についても住みやすく暮らしやすいまちづくりを進めていくということを少し強調して書いているところでございます。次に、24ページは「計画の推進に向けた考え方」ですが、これからの人口構成が高齢化にシフトしていくということで、子育てですとか多世代交流、拠点づくりといったところをバランスよくやっていかなければいけないということが書いてございます。そして26ページが、これもたくさんご議論いただきましたが、「多様な主体との協働・連携」ということで、いろいろな主体との連携によりまして、地域貢献や地域課題解決を進めていくということと、区役所機能の強化ですとか自治体間連携といったことも重要ということを書いてございます。27ページが、行財政改革の取組ということで、市民サービスの質的改革や効率化というような行財政運営のことが書いてございます。

それから28ページ、財政運営というところでございまして、28ページが、市税収入は伸びておりますが、29ページは、事務的経費、社会保障費等がかなり伸びているということが書いてございます。30ページが、「行財政改革の取組」ということで、人件費の削減がいわゆる扶助費等で相殺されている状況にあるというところでございまして、31ページ、32ページが「今後の収支見通し」というところでございます。32ページのグラフを見ていただきますと、当面、大規模

事業等で支出は膨らむのですが、平成 31 年に収支均衡が図られるというグラフが描いてございます。こういったグラフにつきましては、新たな総合計画の具体的な取組あるいは行財政改革の取組を反映して、今年度末までに最終的な収支見通しをお示ししていきたいと思っております。

33 ページは、こちらもたくさんご議論いただきまして、「持続可能な財政運営」ということで、効果的な事業執行に加えて、財源確保を多面的にやったほうがいいというご意見をたくさんいただきましたので、そういったところも書いてございます。次に 34 ページが、「計画の進行管理」ということで、非常に実行性の高い計画とするために進行管理をちゃんとやっていこうということが書いてございます。ここまでの総論というところでございまして、次に本編が 39 ページ以降にございます。こちらで、皆様にご議論をいただいたところがこういった形で反映されているかというのをお話ししたいと思えます。41 ページは、見方を示してございまして、網かけの部分が基本構想 30 年のもの、太い線で囲まれている部分が基本計画 10 年物といった形でこの冊子は構成されているということをご確認いただければと思います。42 ページからが、基本構想の「趣旨、目的」というところでございまして、こちらは本市の歴史、現状認識、ポテンシャルなどが書いてございます。中段からやや下のところに、今後 30 年程度を展望したときに避けて通れない課題、この市民検討会議の中でも「プライオリティを意識したまちづくりが重要」という話もありましたので、ここの基本構想のところに入れてございます。それから 43 ページ、「目指す都市像とまちづくりの基本目標」。これから目指す都市像でございまして、上から 4 行目、「寄り添い、支え合い」というところは「伴走型の環境づくり」、あるいはその後ろの「社会に貢献することで生きがいを持ち」、こういったところは「高齢者の出番づくり」、さらには中段にございまして、「自助・共助（互助）・公助」ということで、今回、括弧書きではございますが、これから市民の方々に浸透させていただこうということで、互助という言葉の基本構想に入れさせていただいたところがございます。次の 44 ページ、45 ページでございまして、総合計画はどうしても文章が多くなりがちでございます。市民検討会議の皆様からもわかりやすいようにというご意見もございましたので、キャッチコピーや絵を入れまして、市民に伝わりやすいような構成にさせていただいております。続きまして、46 ページ以降に政策体系が書いてございまして、具体的な取組は 51 ページからになります。基本政策は 5 つございまして、まず基本政策 1 として、「生命を守り、生き生きと暮らすことができるまちづくり」でございまして、52 ページでございまして、基本構想の考え方が書いてございます。災害から命を守る等の考え方がこちらに書いてございまして、54 ページをご覧くださいませでしょうか。先ほど基本構想の考え方に基づく基本計画の考え方、政策が、「災害から生命を守る」というところでございますが、こちら政策の方向性のところの下から 3 行目、「地域のリーダーや若者も含めた幅広い世代の市民や企業と力を合わせながら」、こちら「地域におけるリーダーが必要」ですとか「若い人を巻き込むことが必要」というご意見を踏まえまして、こちらに反映させていただいたところがございます。次に 56 ページ、「安全に暮らせるまちをつくる」、こちら政策の基本的な方向性のところで、「ルール遵守の徹底」、「マナーの向上」などのご意見を反映させていただいております。さらに、60 ページでございまして。「誰もが安心して暮らせる地域のつながり：しくみをつくる」というところでございますが、政策の方向性のところで、中段、「地域のさまざまな主体が、世代を越えて、支え合い」ですが、「顔の見える関係づくり」というご意見について入れさせていただいております。さらにその下、「高齢

者や障害者をはじめとした誰もが、役割と生きがいを持ち」では、「高齢者の出番づくり」というご意見をいただきましたので、こちらに反映させていただいているところでございます。

続きまして 67 ページが、基本政策 2 「子どもを安心して育てることができるふるさとづくり」ということでございます。子ども、教育といった部分のところでございますが、68 ページをご覧くださいと思います。具体的な考え方が書いてございますが、上から 3 行目、「子どもや、子育て家庭に寄り添い、共に幸せに暮らすことができる地域づくり」について、「伴走型の環境づくり」等のニュアンスを入れさせていただいております。それから中段やや下、「若者として社会に力強く羽ばたいていく姿を市民が実感できるような社会」、ここでは「働く喜びをリアルに感じられる学びの機会づくり」といったところを反映させていただいております。その下段にも、「社会的な役割をつくることが重要」というご意見をいただきましたので、その辺の文面を入れさせていただいております。続きまして 77 ページ、基本政策 3 でございます。「市民生活を豊かにする環境づくり」ということで、環境関係でございます。84 ページでございますが、「緑と水の豊かな環境をつくりだす」。ここは緑関係でございますが、政策の方向性の下から 3 行目に、「行政と企業、市民などのさまざまな主体が協働、連携し」というのは、「公園管理等で地域の自主的な管理が必要」というご意見をいただきましたので、こちらのニュアンスで入れさせていただいております。続きまして 87 ページ、基本政策 4、「活力と魅力あふれる力強い都市づくり」ということでございまして、こちらは産業ですとか文化、スポーツといったところの分野でございます。88 ページをまずご覧くださいと思いますが、中段やや下、3 段落目の「また」の 2 行目で、「少子高齢化の急速な進展などの社会状況の変化を見極めながら」ということで、「プライオリティを意識したまちづくりが重要である」というご意見もたくさんいただきましたので、ここにそういった文面を入れさせていただいております。続きまして 94 ページでございます。「生き生きと働き続けられる環境をつくる」ということでございますが、政策の基本的な方向性の部分に、「若者や女性への就業支援・再チャレンジできるしくみづくり」といったご意見を入れております。その下の「子どもの頃から働くよろこびや価値観をリアルに実感できる学びの機会」、ここはそのまの言葉で入れさせていただいております。続きまして 100 ページでございます。「良好な都市環境の形成を推進する」ということでございますが、政策の基本的な方向性の 2 行目で、「ライフステージに合わせた、より快適な暮らし」ということでございまして、こちらはこの会議の中で「ライフステージに合わせた住みかえ」などのお話ございましたので、そのフレーズを入れております。続きまして 106 ページでございます。「戦略的なシティプロモーション」。ここにもたくさんのご意見をいただきました。下から 5 行目、「海外にも通用する抜群の都市ブランドを確立し」ということで、「キラキラ感」、「断トツ」みたいなお話もいただきましたのでこちらに入れさせていただいております。この 2 行下、「市民や企業などと効果的なコラボレーションを図り」、「広く伝わる戦略的なシティプロモーション」というところでは、「市民、企業とのコラボレーション」あるいは「パッケージ」、「情報発信をしっかりと」というご意見がございましたので、こちらに入れさせていただきました。続きまして 109 ページでございます。基本政策 5、「誰もが生きがいを持てる市民自治の地域づくり」ですが、こちらは地方分権ですとか市民自治といった内容のところでございますが、110 ページで、「多様な人々が生涯にわたって生きがいを感じ、共に認め合い、支え合いながら」地域づくりをしていくということを入れさせていただきました。次の

112 ページでございますが、「参加と協働により市民自治を推進する」ということで、上段は、元気な高齢者ですとか若者の意識の高まりを感知しながら、意欲的な企業などと連携してまちづくりを進めるということが書いてございまして、中段のやや下に、たくさんご意見をいただきいたところでございますが、下から4行目「地域の人材や活動をコーディネート」ということで、自助・共助では限界、厳しいところもあるということで、「公助がしっかりとコーディネートしていく」といったところをここに入れさせていただいております。各政策としては、こういった形で皆様のご意見を入れさせていただいたものに加えまして、その後の区計画が117 ページ以降でございます。118 ページになりますが、四角枠のところ「現状の課題」、「まちづくりの方向性」、「地域の課題解決に向けた主要な取組の概要」を各区の計画として書いてございます。120 ページ以降が区ごとの取組で、これは最終的には実施計画ですので、今後、もう少し熟度を増していく取組でございまして、概要として示しております。この中で現状と課題、まちづくりの方向性、それと主な取組が書いてございますが、皆様からいただいたご意見、例えば「多世代で交流できる場づくり」ですとか、「中高生等の力を合わせた防災」ですとか、あるいは「住みかえ」といったところを、各区の取組の中で今回頭出しをさせていただいているところがございます。それから135 ページ以降が、今回、皆様といろいろご議論してまとめさせていただきました「市民から市民へのメッセージ」で、ここに反映させていただいているところがございます。そして最後、143 ページに参考資料がついてございまして、これまでの議論の経過ですとか推進体制等が書いてございます。こちらの冊子の説明は以上でございまして、今お話しさせていただいたものを少しまとめたものが資料5になります。資料5は、新たな総合計画素案と会議でいただいた意見ということです。左側の基本構想素案、基本計画素案というのが先ほどご説明させていただきました文面が書いてございまして、その右側に市民検討会議あるいは有識者会議からいただいた主な意見ということで、こちらに抜粋させていただきました。できるだけ市民検討会議の皆様あるいは有識者会議の皆様のご意見を反映させていくということで、こういった対照表をご用意させていただきましたので、後ほどご覧いただければと思います。

最後に資料6でございます。素案につきまして、この後どういったスケジュールで進めるかということをご説明したいと思っております。右側が平成27年度ございまして、7月のところですが、今回、新たな総合計画素案という形で、今回のご意見を踏まえまして議会、川崎市民全体に公表させていただきたいと考えているところです。8月以降、パブリックコメント等を経まして、11月にそういったご意見も踏まえまして基本構想案、基本計画案を議会に上程させていただきまして、2月に向けて取組を進めていきたいと考えております。この際には具体的な政策体系、全ての政策体系ですとか主な取組もあわせてお示しいたしまして、議会等のご意見あるいはパブリックコメントをもう一度かけさせていただきまして、来年2月に実施計画をまとめて、新たな総合計画として策定してまいりたいと考えているところでございます。少し長くなりましたが、説明は以上でございます。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。かなりポイントを突いて的確にご説明いただいたとは思いますが、もともとボリュームがありますので、十分に点検する時間はなかったかもしれません。事前にお

目通しいただいたかと思しますので、まず、ご説明の中でわからなかったとか、構成なども複雑でございましたので、これはどういうことだろうかという質問をお受けしたいと思えます。その後、先ほど申し上げましたように、ご意見やご提案について、順次、全員にご発言いただくようにしたいと思います。質問と意見を分けたいと思えますので、まず今のご説明あるいは配付資料について何か質問がございますでしょうか。

(後本委員)

今ご説明いただいた資料4が今回のパブコメにかか、その次にもう1回パブコメをご予定されていると思うのですが、このときのパブコメは、具体的にはこの素案に例えば実施計画のもっと詳しいものが載ってくるというイメージでよろしいのでしょうか。

(久万企画調整課長)

おっしゃるとおりでございまして、今回の素案は30年、10年の方向性ということでございまして、11月にお諮りするときにはもう少し具体の事業をお示しした実施計画に準ずるようなものをお示ししていきたいと考えているところでございます。

(片山委員)

この総合計画は、最終的に議会に提案されて、議会の承認を得て、正式な川崎市の総合計画となるわけですが、実行とのきちんとしたフォローがないといけないと思えます。計画と実行の問題について、どういう形でフォローされているのか、お聞きしたいと思います。

(久万企画調整課長)

先ほど少し説明が漏れてしまったのですが、今回の総合計画では、市民の実感をはじめとして、いろいろな成果指標を入れていくものでございますので、施策がちゃんと進んでいるかなどしっかりと、外部あるいは内部的な方々の中で評価をしていきたいと考えているところでございます。

(福田市長)

補足ですが、34ページから37ページにかけて、進行管理と評価の仕方についてどうやってサイクルを回していくかという点をお示ししています。本当に進んでいるのか進んでいないのかという評価を受けて、次にまたつなげていくというものです。2年ごとに中間評価を入れながらやっていきます。

(長野委員)

今まで有識者会議と市民検討会議でもんできたものをパブコメという形でチェックを入れる形になっているのですが、具体的にパブコメとはどうやるのか、具体的に教えていただけませんか。

(久万企画調整課長)

パブリックコメント制度ですが、この総合計画に限らず、全ての計画について、市民の皆様

「この計画で本当にいいですか」ということをお諮りするもので、例えば市民館などに冊子を置いて、巻末に意見書がありますが、この計画に対してどう思われているのかというご意見を市民の方からいただいて、それを踏まえて最終的な計画としてつくっていくということです。

(福田市長)

全戸に配布されている市政だよりの特別号でお示しすることを今計画しておりまして、今までいただいた意見の簡単な概略版をお示しして、「こういう形でご意見ください」というもので、ネットでも紙面でも見ていただけるような形にしたいと思っています。

(長野委員)

具体的な実施計画をつくっていくのが大事だという話があって、それを我々がチェックする場は今後ないと思っていいですか。具体的な実施計画がちゃんと素案に盛り込まれて、PDCAが回っているかというのを見ていきたいと思っていて、そのチェックプロセスがないなと思っています。パブコメでそこは全部包括しようと考えられていますか。

(福田市長)

例えば今回の資料についていただいたご意見は、時間的に議員全員説明会に出すタイミングに間に合わないので、パブリックコメントで受け付けさせていただきたいと思っております。

(長野委員)

わかりました。

(松本委員)

今回、市民の実感指標というものが出されているのですが、この資料の後ろのほうに政令指定都市のそれぞれの順位が書いてあります。川崎が1位とか19位とか、いろいろな順位が書かれていて、何でこれが19位か、18位かは多分市民の感覚なので順位を決めた理由はわからないと思うのですが、どういうところが足りなくてそう順位が低いのかなとか、いろいろなことを考えてしまって、逆に市民の皆さんにこういう資料をお見せしたときに、目標はこれだけ高くなりますとあるのですが、その辺の感覚がいまいちわからないのですが、その辺の説明はどのようにするのかと思ひまして。

(磯崎コーディネーター)

どういう趣旨でこういうものを載せるのか、あるいは市民が誤解しないような掲げ方が必要ではないかというご趣旨だと思いますが、いかがですか。

(福田市長)

そうですね、今回のアンケートの調査結果を見て、私も意外に感じた項目が結構ありました。例えば、全国の政令市と東京23区を合わせた21の都市を比較した大都市比較というものがあり

ます。いろいろなリアルな数字で、どれが1位か2位かという順位立てているのですが、例えば刑法犯の認知件数が一番低いのは川崎市。ということは、一番安全なまちなのです。ただ、その感覚を市民の皆さんが持っているかという点意外に思っていなかったり、今年2月の事件を見ますと、実感として、すごく安全ではないと思われている。例えば私が力を入れてきた待機児童の話にしても、ゼロにしたというのは、それは数字的にアウトプットとしてはよかったです。しかし、アウトカムとして、数値上ゼロを達成したことが本当に子育てしやすいまちになるのかといったら、そうではないですね。ですから、私が今回の総合計画にもものすごくこだわりを持っているのは、市民の生活実感をどう向上させるかだと思っております。数字上1位になったからといって、あるいは待機児童がゼロになったからといって、本当に子育てしやすいまちなのか。どういうふうに評価したらいいのか、これは正直、私たちもいろいろ迷いました。そういう中で、他都市と比較したアンケート調査をやってみたということなのです。

(磯崎コーディネーター)

大変興味深い取組だと思います。他市の市民に対しても川崎市が独自にアンケートしているのですね。それで比較をするというやり方は大変興味深いと思いました。

(荻原委員)

資料6の表の中で、タイムスケジュールですが、この市の基本構想、基本計画、実施計画が、区の実施計画とどう連携していくのか、具現化されていくのか。区との調整はこの資料6の外にあるのでしょうか。実施計画がパブコメの後、議会を通過して、それで発表されて、その後、区とのコーディネーションが始まるのでしょうか。

(久万企画調整課長)

区の計画は、今回の総合計画の中の実施計画という形で位置づけておりますので、区役所とはどういう課題があって、どういう取組が必要なのかということをごまきにやっている最中でございます。

(山下博子委員)

私も資料6を見てなのですが、市民車座集会在8月23日、中原区だけ書いてあるのですが、ほかの区ではしないのかということと、それから、車座集会是30人ぐらいですから、12月にパブコメをかける前に、もっと大きな会場で7区で総合計画案の説明会みたいなものは開催されないのでしょうか。

(久万企画調整課長)

この市民検討会議もそうですが、総合計画につきましては、かなり前段でたくさんの市民のご意見をいただいてきたところでございます。名前は車座集會ですが、会場は大きなホールで行います。また、なかなかお越しいただけることも難しいという方もございますので、インターネットも使いながらご意見をいただくということで考えております。

(加藤英雄委員)

先ほどの松本さんの意見に似ているのですが、市民の実感度をはかっていくということで、私はこれは意味があるのかなと思っています。これをはかる頻度と、あと、152 ページを見ると、アンケートはどれくらいのサンプルでやっているかということ、ターゲットとして市民検討会議の中でも高校生レベルまで下げるべきではないかという話があったと思うのですが、この対象を今後どこまで落としていくのかというところを教えていただければと思います。

(久万企画調整課長)

先ほどの市民の実感については、毎年調査してもそんなに結果が変わることはないだろうということもありますので、2年に1回を予定しております。2年に1回で市民のトレンドを捉えていこうと考えてございます。年齢については18歳という流れもございますので、この総合計画だけではなく、今後いろいろなところに影響があると思いますので、セットで考えていくべきかと思っています。

(外山委員)

今後の収支の見通しということで、収支不足を解消する見込みですとか、その懸念は解消されるのではないかと詳しく明記していただいているのですが、実際にここで皆さんがまとめた意見を具現化するに当たって、またその財源というのが出てくると思います。それをどういうふうに補填するのか。実際、解消する見込みとはあっても、黒字になるかどうかというところまでの見込みは書いていないのですが、具現化するに当たってのことも含めて、どういった方向性を持っているのか心配に思いましたので、ご説明いただけないかと思います。

(福田市長)

資料6で、一番上のところに新たな総合計画が書いてございます。2番目のところが行財政改革に関する計画で、その下の今後の財政運営というところで、総合計画を策定するに当たって、行財政改革に関する計画と今後の収支見通し、フレームを全部セットで出していくということになります。こういった総合計画の個別事業も含めてやっていくためには、いわゆる財政的なフレームがないと、まさに絵に描いた餅になってしまいますので、行財政改革もこの総合計画をやっていくための手段としてやっていかななくてはいけないので、全部1セットで進めていきます。

(磯崎コーディネーター)

よろしいでしょうか。とりあえずここで一旦切りまして、順次、ご発言をいただきたいと思いますが、私からも質問を1つだけよろしいでしょうか。

この資料では共助と互助という言葉が使われていますが、これは定義の問題ですので、皆さんと一緒に共有しておいたほうがいいかなと思います。我々は自助・共助・公助という3つの区分で議論し、意見もまとめましたが、この資料では共助のほかに互助という言葉も使われていますが、共助と互助の違いはどんなふうに考えておられるか。もしご説明いただけるなら、お願いい

たします。

(福田市長)

互助というのは、いわゆる顔の見える関係ですね。共助はざっくりと、コミュニティ全体という感じです。互助というのは顔の見える、片山さんとか、長谷川さんとかと言えるような小さい単位でのことだと考えています。

(磯崎コーディネーター)

わかりました。確かに、特に地域包括ケアシステムなどでよく言われるのは、介護保険というのは保険料でやっていますからお互いの支え合いなのですが、それは直接顔の見える関係ではないので、「共助」の関係だとされています。そうではなくて、高齢者の見守りなど顔の見える関係でお互いが支援するというような関係を、「共助」から独立させて「互助」と呼ぼうという考えがありますね。特に福祉やコミュニティの分野からそういうことが言われていると思います。そういう使い分けを採用したということですね。

意見交換

(磯崎コーディネーター)

それでは、それぞれご意見をいただきたいと思います。

これからいただきたいご意見は3つございまして、1つはこの総合計画の素案についてのご意見、ご提案です。2つ目は、今後の実施計画の策定、あるいは今後の市政運営、市の施策全体についての意見や提案です。3つ目は、検討会議に参加して、全体としてこういう点を発見したとか、こういうところが課題ではないかというように、会議に参加しての感想です。この3つのいずれかをご披露いただければと思います。

ご意見いただく際に、最初にこの3つのうち、どの意見だとおっしゃっていただけるとありがたいなと思います。大変恐縮ですがお一人2分程度でお願いしてよろしいでしょうか。2、3人のご意見をいただいたところで、市長あるいは事務局からご説明いただくという形で、全員にご発言いただこうと思っております。

なお、1つ目の総合計画素案についてのご意見については、先ほど市長からもお話があったとおり、今後、議会への説明やパブリックコメントを行って、11月に総合計画素案を修正することですので、ここでいただいたご意見についても11月の修正に向けて検討していただくというふうになろうかと思っておりますので、ご承知おきをいただければと思います。

それでは、名簿順でよろしいでしょうか。お一人2分程度でお願いいたします。では、荻原さん、お願いします。

(荻原委員)

昨年7月、新聞か何かを見ていて公募があったので応募したところ、採用になりまして、それ以来、皆勤しまして、全会議出ることができまして、大変有意義かつ幸せな時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。感想とお礼でございます。

(小山委員)

提案ですが、川崎をもっと住みやすいまちにするために考えてみました。川崎には最先端の技術があって、それが教育につながって、健康に生きるための自然も北部には多くあって、生活するためにはお金が必要で、南部には仕事がたくさんあると。こんなにいい市はないと思っているのですが、例えば京急がやっている「みさきまぐろきっぷ」という、1日3,000円で電車やバスに乗って、温泉に入って、魚を食べて帰ってくるというのを、南武線でもやれたらと思います。私は南部に住んでいるのですが、欲しいものは何でもそろいます。ただ1つ、おいしい空気が手に入らない。そこを南武線で南部の人が北部においしい空気を吸いにいくという広報や取組をしていくと、横浜にも東京にもお金を取られないで、川崎市のお金は川崎市に落とすという循環型で地産地消な取組になります。誰もが生き生きと生活することもできるし、生きがいも持てるし、いいのではないかと思います。よろしくお願いします。

(外山委員)

私も感想を交えてということで、1年間を通していろいろな意見を述べさせていただいたのですが、このメンバーだけではなくて、小中学生とか高校生とかの意見もすごく大事だなと思っています。ジャンル別で出させていただきましたが、テーマを特化してやったときに、周りの意見を聞いてから参加しようと思っていたのですが、なかなかそれが実現できなかったというのが残念なところですね。小中学生とか、逆にもっとお年を召した大先輩の方とかの意見を聞くことは本当にすごく大事なことで、川崎市もこうしたアンケートなども取っていただいているのですが、その中でも一握りなのかなと思いました。川崎市のよりよいまちづくりのために一人ひとりの意見を順番にまとめていくというのは大変なので、そういったこともいかがかなと思いました。また、区単位のほうでやらせていただいたときには、1回きりではなくて、川崎市内のそれぞれの区で詰めていくことによって、こうした川崎市単位にもっていくことというのはいいと思いました。まだ課題が山積している中で、また1年単位とかではなくて、もっと長い目で見てやっていったほうが、もっとよりよい意見がいっぱい出るのではないかと思います。以上です。ありがとうございます。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。それでは、以上3人のご意見に対してコメントをお願いします。

(福田市長)

まず、荻原さん、皆勤、ありがとうございました。このメンバーは、年齢的にも性別的にもバランスよく、非常に幅広いところからご意見をいただいたと思っています。各区で行ったときはさらに幅広い年齢層だったと思いますし、そういった意味でいいバランスの議論ができたのではないかと私は思っております。外山さんからいただいたように、おとといも、若手、30代ぐらいの職員、200人くらいを対象に話す機会があったのですが、とにかく市民の中に入り込んでいくようにと話しました。市民参加がないところにこれからの行政運営は絶対に無理です。今回の総

合計画というのは本当に大きな10年間の計画であります、1つ1つの施策、1つ1つの事業で、市民の中に入り込んでいく、一緒になってつくっていくということを繰り返してやっていくことが、結果的にいいサービスが提供できるようになるし、ある意味、満足度が高まっていくのではないかと考えています。この姿勢をこれからも貫いていきたいなと思っております。

それから、小山さんの南北の話、私も常々思っているところで、3か月くらい前の市政だよりも、南北の魅力をお互いに知りましょうというコメントを書かせていただいたのですが、そんなこともやっていきたいと思っています。ありがとうございます。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。それでは、青柳委員、お願いいたします。

(青柳委員)

今回、委員に選定していただきまして、ありがとうございました。

この討議の中で、災害のテーマに一番興味を持ちました。高い確率で災害発生が見込まれて、かけがえのない財産、生命が失われているのが事実です。災害に対して、昨年、広島県の安佐南地区で多くの人命が奪われました。神奈川県では1人が土砂災害危険地域で亡くなりました。この原因は、土砂災害危険地域であり、川崎市はもとより、神奈川県でも数多くの土砂災害危険地域に住んでいると思われまます。川崎市内とか横浜市内のいわゆる都市では、安全に暮らせていると思います。ところが、山間部については、絶えず、大雨が降るたびに神経をとがらせて住んでいて、川崎市北部地帯はかなり危険部に住んでおられるのが現実です。日本は自然災害大国だということを絶えず意識して、地震、台風、火災、改めて意識して災害に対して向き合っていかなければならないと考えております。これらに対処するには、気象庁から、今、携帯をお持ちの方はメール情報が入ります。どこに行けばよいか、自分の家をどうするか、いざというときには混乱をきたす情報が出ます。いわゆるパニックに対してどう対処したらいいか、まずは避難が一番大切ですが、人間ですからいろいろなことが考えられます。会社にいるとき、山にいるとき、子どもが保育園にいるとき、考え出したら切りがありません。そこで、危機管理情報部などを設置して、家族の安否が合理的に確認がとれれば一番安心なのですが、今のビッグデータでは、データだけのことで課題があります。もっと緊密な内容が欲しいと考えます。以上です。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。事前に内容を用意していただきまして、その中で災害、とりわけ情報の問題をどうするかという問題提起だったかと思えます。ありがとうございました。

では、加藤さん、続けてお願いします。

(加藤英雄委員)

幸区の加藤です。まず私が思ったのは、川崎市としての価値を高めるところで、以前、検討会議の中でも断トツというものをこれからつくっていくと、なかなか川崎市の魅力自体が上がっていかないと話がありました。自分たちでできることもあるでしょうけど、ここは大き

く公助というところも重要なのかなと思っていて、どう具体的にやっていくのか考えていかなければいけないのかなと思いました。あと、コミュニティ、共助という言葉がありましたが、自分がこういう場で意見を言いながらも、どうやって入っていくべきなのか、逆にどうやって巻き込んでいかないとうまくいかないのかというところをもっと考えていかなければいけないと考えました。あと、我々がこういう取組を行って、皆さんにパブリックコメント等で公表していくのですが、最終的に市民に浸透して伝わったかというプロセスの中で、一番最後の伝わったかというところはやっぱり難しいなと思いました。見せ方としてはかなり整理されていると思います。市政だよりにいろいろなイベント情報がごちゃごちゃに書いてあって、正直わかりづらくて、見る気も失せてしまうので、逆にそういうところをうまくICTを使って、上手に検索できるようにしたらいいと思います。うまいこと欲しい情報がストレートに出てくるような仕組みだとか、見たい人が簡単に探せるような仕掛けづくりはICTを使えばうまくいくのではないかなと思っていますので、工夫していただければなと思いました。私からは以上です。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。断トツの魅力をどうつくるかとか市民をどう巻き込むか、それから3つ目が情報発信の方法、伝わる情報発信でないといけないという話だったかと思っています。

もう1人いただいてから、コメントいただきましょうか。

新富委員、お願いします。

(新富委員)

この検討会議に参加して、私の知識も幅も広がりました。ありがとうございます。

資料5の右側にあるのですが、元気な高齢者の出番をということで、実際あったこととお話したいと思います。私自身のものづくりの経験を生かして、何かサポートすることがないかなと思って調べてみたら、川崎市中小企業サポートセンターというのがありまして、登録しに行きました。1か月半ぐらいで登録された回答が来ました。その後、何もありませんね。民間にも登録してみようと4月末の金曜日の夜、出しました。そうしたら、休み明けにはあなたの知識をもうちょっと聞きたいということで、その後に、すぐ仕事をいただいて、契約を結びました。すばらしく早いです。中小企業サポートセンターがどんな組織なのかわかりません。私自身が今現在、28歳の若い方と一緒にサポートして民間の会社に行っているのですが、川崎市の中小企業がかなりいろいろな問題を抱えていると。もう少し踏み込んで、現場へ行って話を聞いて、その人たちにサポートしていくことが必要ではないかなと思っています。

もう1つは、最高のまちとは人が生きていく中で必要とされ、役割があると実感できる社会が望ましい。やはり要求されれば我々幸せなのです。喜んでもらえれば、うれしいですね。我々高齢者にとっては非常に活性化して元気になります。「豊かさの拡大は限界であり」と書いてあります。やはり物の豊かさではなくて、もう1つ、心の豊かさ、満足といったもの、または幸福、この間、幸福の話をしましたが、もう一步踏み込んで、なぜ生きているのか、なぜ勉強するのか、なぜ仕事をするのかといったところを子どもたちにぜひ伝えてほしいなと思います。そこがポイントかなと思っています。なぜかという、私の孫は小学校6年生で話をすると意外とわかって

くれるのです。上の子はなかなかわかりません。中学生、高校生、話を聞きません。ですから、やはり小学生のころから人生とか哲学のようなものを充実して、深みのあるものにしていただきたいなと思っています。ありがとうございました。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。それでは、3人の方から多岐にわたるご意見でしたが、可能な範囲でコメントをよろしくお願いします。

(福田市長)

青柳さんと加藤さんからいただいた意見は共通性があると思いました。ICTを使って、もっと暮らしや防災に役立てられることがあるのではないかとということで、全くそのとお리だと思います。実はこれから「川崎アプリ」というものの開発を民間とのコラボでやろうとしています。昨年度、富士通と川崎市が包括協定を締結しましたのでビッグデータをどう使うかということで、麻生区で子育てアプリというものをやりました。それは自分の子どもが何歳で、どこの地域に住んでいて、年齢が何歳でとか、最初に設定しておきますと、そこにかかわるイベント情報などがどんどん入ってくるようになるというもので、大好評だったのです。麻生区での実証実験を全市的に展開していこうとこれから計画しています。次は防災も計画をしております、1つが「川崎アプリ」で、いろいろな市民の、あるいは民間とコラボさせて、ここに暮らしているといろいろな情報が入って、生活しやすくなるというものをつくっていこうと計画しているところです。新富さんの中小企業のこと、いろいろありがとうございます。川崎はすごく人材豊富で、先週も国際交流イベントがあったのですが、例えば海外青年協力隊出身の方とか、海外勤務の経験が多い方とか、あるいはこの国には強いという人たちがいっぱいいるのですね。そういう力を川崎市でぐっと集めて、力を貸していただくと、大きな力になると思っていて、そういういろいろなことにアプローチしているのです。人こそ資源なので、そういう市民の力を借りて、これからいろいろなものに展開できればと思っておりますので、新富さんも川崎市の産業のために力を貸していただきたいと思います。ありがとうございます。

(磯崎コーディネーター)

よろしいでしょうか。それでは続きまして、川島委員、お願いいたします。

(川島委員)

まず初めに、この川崎市民検討会議というすばらしい機会を与えていただいた福田市長、それから川崎市の総合企画局をはじめ、関係各位の皆様方に改めて御礼申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。先ほど磯崎コーディネーターから3つというテーマがありましたが、2つ目と3つ目でお話しさせていただきたいと思います。私自身にとってもすばらしいこの1年間の経験、体験で、貴重な時間を共有させていただいたかなと思っております。

私事ですが、三十数年前、まだ青年の志を持っていたころ、政治とか行政に非常に興味を持っておりまして、大学でも法律、政治学を勉強しました。そのときにいろいろな国会議員の先生な

どと会って、非常に限界を感じたのです。そのときに、政治の世界というのはやっぱり一般市民の我々とは違うのかなと思ひ、その後、実業界で生きていこうと経済界で三十数年やってきました。ただ、今振り返ると、そういった経験もちゃんと自分で生かしていかなければいけないのかなという反省のもとで、昨年、600名のアトランダムの中に入れていただいて、この場に参加させていただいたというのも何かの縁かと思っています。原点の気づきを与えていただいたと私が思っているのは、私たちの市民一人ひとりが主役だということです。自助・共助・公助の話ですが、私はこの間の有識者会議のときに互助という言葉も出ましたから、これもすばらしいと思ひましたし、共助という言葉の共の字は、共という字もそうだが、協力の協でもいいなと思ひました。市長のコメントの中にもありましたが、例えば昔、ケネディ大統領が言いました。国が何をしてくれるかではなくて、あなたが国に何をできるかを問うてほしいと。これが原点だと思うのです。国を川崎に置きかえれば、川崎市が何を我々にしてくれるかではなくて、自分が川崎市に何ができるかを問うていく、これが川崎市民である我々の義務かなと思ひました。

この計画策定の趣旨の中にもありますが、成長と成熟の調和による持続可能な最幸のまち川崎の実現を目指すがありますが、今回、市長をはじめ、川崎市の皆さん方が我々にこういう機会を与えたということは、本当に我々にとってすばらしいことだなと思ひます。

今後パブリックコメントだとかいろいろなされていくと思ひますが、30年程度を想定した基本構想と10年程度の基本計画の概要で、第4回会議のときに私、申し上げたのですが、平成28年度、平成29年度の実施計画の中でどう投影させていくか。ここまでの議論ができたわけですから、実施してきた皆さんの意見の反映がどうなされていくかが本当に一番大事だと思うのです。例えば実業界でいろいろな経験を積み重ねた方々の知識を生かした形で行財政に再活用していくという方法もすごく有意義かなと思ひました。これをやることによって、実際の政治や行政と我々一般市民の生活とが縮まっていくのではないかなと思ひます。私自身が持っている1つのベンチマークなのですが、川崎市民の多くが、川崎に住んで川崎の市民であることを、プライド、誇りを持って言える、そういったまちづくりがまさに今この川崎だったらできるのではないかなと実感しています。私が30年間の社会人として生きてきた中での1つの私の座右の銘でもあるのですが、情熱とは持続なり、そして持続こそ力なりです。せつかく機会を与えていただいて、これだけの意見が出たわけですから、これをぜひ生かしていただきたいと思っています。

34ページの具体的な進行管理の中でPDCAがしっかり回ると書かれています。これは大変私自身はありがたいことだと思ひますし、私もそういう中で人生を重ねてきました。政治家の友人と話すとき、彼らが悩んでいるのは、自分たちは一生懸命やろうとしているが地域住民がついてきてくれないとか、国民と距離があると感じるというお話が多いです。今回、こういう場をこの川崎市で与えていただいたことをぜひ生かしていきたいと思っています。この議論が今後の基本計画の策定とか都市計画の具現性の中で、本当に生かされる行政をぜひ推進していただければと思ひます。よろしくお願ひいたします。以上です。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。それでは、馬場委員、お願ひいたします。

(馬場委員)

馬場です。私は無作為抽出の川崎の未来を考える市民検討会に参加しまして、この会に参加させていただきました。それというのも、市民検討会のほうでは、1つのテーマに絞って1日かけてゆっくりと議論することで、すぐにでも施策に落とせそうなアイデアなどがたくさん出てきて、それをぜひ実施計画に結びつけるところまで見届けたいなという思いもあって参加しました。結果として、これは前段のところでの計画ということだったのですが、私たちの意見を本当に一言漏らさず記録にもとどめてくださいましたし、市長をはじめ、コーディネーター、市の方が真摯に耳を傾けてくださいましたので、必ず実施計画につながると思っています。

ぜひ、川崎の未来を考える市民検討会で出たアイデアまでさかのぼって、区に特化したような細かいアイデアが出ていますので、そういったものも酌み取って、実施計画につなげていただけたらなと思っております。あと、自助、共助がとても大切だということをこの会に参加して改めて感じました。私自身、皆さんに比べると、無作為で選ばれない限り、ずっとこういったものに参加することもないような身だったと思います。こういう会に参加して初めてその大切さを感じることができました。実感すればやると思うので、今後、実施計画に落とすに当たっては、市民の一人ひとりがその大切さを実感できるような形でぜひお願いしたいなと思います。

あと最後に、実施をするに当たっては、本当にスピードが大事だと思います。私自身も川崎に勤めておりまして、川崎市にはたくさんの研究開発部門とか企業があるのですが、住宅地の中に建っているというのが特徴的だと思うのです。私が勤めているところも、市民の皆さんにご迷惑をかけないように帰る駅までの道順すら決められていて、ここは右折する、ここは左側通行と、本当に地域に溶け込みたいと思っている企業もあるかと思います。ぜひ民間の力も使ってスピーディーに対応していただければと思います。以上です。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。では、松本委員、お願いします。

(松本委員)

ありがとうございます。超高齢社会に向かって平均寿命と健康寿命という話がありましたが、健康寿命を延ばすために高齢者の出番云々という話が出ました。実は今、小学生の体力テストの結果が全国で下から数えて3番目という悲惨な結果が出ているのです。それで、やっぱり体力というものは人間の活動の源でありますし、また、精神面、例えば意欲や気力を充実させるということですごくかかわりが深いといわれています。幼児期から運動・遊びとかありますが、待機児童ゼロに向かって保育所はどんどん増えていますが、園庭のない保育所が多くて、子どもたちがいつも近隣の公園に、それも1園だけではなくて2つも3つも園が来て、時間を区切りながら遊んで帰るみたいな状況があるので、ぜひそこを早く解消できるようにお願いしたいと思います。学力のほうはいろいろ手立があっているのですが、子どもたちの心と体の発達というものを考えて、体力というところにもう少し力を注いでいただければ、もしかしたらその体をつくった子どもたちが大きくなって大人になって高齢者になったときに、元気なお年寄りがたくさん増えるということで健康寿命が延びるといふところにつながるのかなと、すごくそういうことを考えて

いました。それと、私のように子どもに関するいろいろな会議に出ている委員の中では、やはり遊ぶ場所がないという意見がすごく出てくるのです。けども、川崎には大きい公園もあるし、川もあるし、緑もあるという割には、遊べる場所がないといわれることがちょっと不思議だなと思っていたのです。スポーツ施設にしても大きい施設もありますし、有名なスポーツ団体もあって、すごく活躍はしているのですが、私たちはどっちかという観戦する側というか、見て楽しむ側に回りがちなので、そこをぜひ自分たちも体を動かしながら一緒に体力づくりをするというような、そういう政策をしていただけると、健康な川崎ができるかなと思いました。

最初の挨拶のときに1つでも意見を聞いていただけたら幸いですと言ったのですが、この素案を見ていると、言ったことがちょこちょこ入っていたので、すごく参加してよかったなと思いました。以上です。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。それでは、市長、お願いします。

(福田市長)

ありがとうございます。まず川島さん、PDCAサイクルのところは、前の会議で非常に強調されていたのが、印象に残っておりまして、そこをしっかりと回していくということは、着実に事業を進めていくことだと思っていますので、しっかりやっていきたいなと思っています。

それから、馬場さんと松本さんの述べていることと似たような認識を持っているのですが、課題を解決するためには、いろいろな民間企業であるとか、市民の皆さんやNPOの皆さんが協力しないと、およそ物事は解決しないと思います。行政だけで解決することは無理なことが多いのです。例えば体力づくりにしても、今までは学校で夏休みの水泳の指導を莫大な予算をつけてやっていたのです。参加者もそんなに多いわけでもないのに予算規模としてはすごく大きい。これは非常にもったいない話で、やめる検討をしたのですが、単純にやめるのではなくて、市内にはスイミングスクールがいっぱいありますから、スイミングスクールとタイアップしてその事業を持ってもらうことにしました。予算は半分以下になり、参加者は倍ぐらいに増えているのです。

民間のスポーツ施設、いわゆるスポーツジムなどにお金を使っているのが全国1位と高いのが川崎市民の特徴です。市内にある民間のそういった施設をどうやって連携していくか、今ある資源をどうやってうまく使っていくかということを考えています。子育てや体力づくり、あるいは高齢者の健康づくりにしても、どうやって今ある資源をうまく活用していくかということだと思うので、課題を皆さんで出し合うことが大切で、それを共有して、ソリューションを持っている人たちに協力してもらい、行政として責任を持ってやっていかなくてはいけないと思っています。頑張りますので、よろしくお願いします。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。それでは、岡田委員、お願いいたします。

(岡田委員)

ありがとうございました。私は今回の会議に参加した感想と、その流れで今後の実施計画への意見、市の施策への意見、2点、お話しさせていただければと思っています。

1 番目の会議に参加した感想としては、市は非常にいろいろな立場の方、ウェブだけでは情報が届かない、紙面でも届けなくてはいけないとか、立場の弱い方とか、いろいろな方がいらっしやって、必ずしも合理的な判断ができなかったりとか、重複してしまうこともあるのだということとは非常に勉強になりました。先ほど川島委員もお話になっていたのですが、私自身、川崎のために何ができるのかというところで非常に思いを強くした部分がありまして、川崎で育っていますので、どういうふうに川崎に貢献して、特に子どもたちに対してどんな貢献ができるのかなどこの会議に参加することで非常に強くしました。実際に参加しないと、シビックプライドみたいなものというのはなかなか醸成されにくいのかなとも思っています、こういった会に参加させていただいたことで、自分自身では高められたのかなと思っています。今後の施策というところでいうと、こういった場で市民の意見を吸い上げてくれて、それを計画の中に落とし込んでいただいたというのは非常にありがたいと思っているのですが、今回参加したことによって市への貢献意欲みたいなものが強まりましたので、より貢献できる場に参加していきたいと思っています。実際に非常に勉強になり、自分の考えをまとめるためにもいろいろな資料をつくらせていただいて、市の職員の方に提出させていただいたり意見交換をさせていただいたりもしたのですが、例えば資料づくり1つとっても、行政は全てを満たした資料をつくれるという、これが行政独特の資料づくりなのだと思いました。民間はもっと違った作り方があったりとか、情報の発信の仕方、プロモーションみたいな部分に関して、そのノウハウについて意見交換をさせていただければ貢献できる部分もあるのではないかと思います。市長もおっしゃっていましたが、市の人材の知識や経験を、市の魅力とか活力をつくるためにどういうふうに生かしていくかという仕組みづくりに対しては今後もいろいろ提言をさせていただきたいなと思いますし、そういった活動をしたいという市民に対しての支援みたいな部分も積極的にしていただけるとありがたいと思いました。今回はいろいろと勉強させていただきまして、ありがとうございました。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。それでは、飯田委員、お願いします。

(飯田委員)

飯田です。今回の総合計画では、我々の意見が結構取り入れられて、岡田さんも言いましたが、うまいなと思いました。よくまとめられていると思います。

逆に言うと、満遍なく取り入れているので、やるべきことがいっぱいあるので、これは実際にどうやるのかなというところが非常に難しいと思います。お金の問題もあるでしょうし、そこをどう生かしていくかというのが大事なので、頑張ってくださいと思います。

私の感想について言うと、やはり貢献できるというのもそうですし、参加して初めて川崎市のことがよくわかるし、愛着も湧くということがわかりました。市民との交流、会話の場をつくることが愛着につながるし、アイデアも浮かぶということで、相乗効果でいいサイクルが回るのでないかと思います。私は62歳になって、再雇用で、安くても仕事が好きで、わくわくしながら

ら仕事をやっています。OB会のほうでもいろいろやっていて、OBのほうでは私は若手で、年がいった人ほど元気があってパワーもある。こういうパワーってもったいないなと思います。先ほど新富さんもおっしゃられていたように、このもったいないパワーを使わないわけにいかないと思います。それによって生きがいを感じて、皆さんのパワーも川崎市のパワーも上がるだろうし、そういうわくわく感のあるような、生きがいの持てるような川崎市に育てたら魅力あるなと思いました。以上です。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。それでは、片山委員、お願いいたします。

(片山委員)

私も40年近く川崎市に住んでいて、退職してから市のことが全然わかっていないことにはっと気がついて、公募で参加させていただきました。この会議に参加して、市の行政とか、あるいは活動、さまざまな課題など今まで漠然としていたものがかなり鮮明になりました。これは非常によかったと感じております。総合計画の今後の展開ですが、やはりこの計画がどのようにして市民の隅々まで行き渡っていくかということが非常に重要だと思います。車座会議とか、こういう会議に参加する人はかなり意識が高いので非常にわかっているのですが、それはごく一部の人であって、市民に広くこの計画が、完全にいき渡るのには難しいと思います。どれだけ伝わるかというのが重要なので、先ほど市長から市の職員の方が市民の中に入り込んでいくということ、これも非常に結構なことですが、市の方の人数も限られていますので、プロモーターあるいはコーディネーターなどが必要です。ぜひ隅々まで渡る工夫をしていただきたいということが1つです。それからもう1つは、市の職員の方もいろいろな仕事で忙しくて、頑張っておられることがよくわかったのですが、やはり効率性とか生産性ですね、同じ計画を実行するにしても、低いコストでやれる方法は幾らでもあると思います。我々、企業に勤めていた立場から見ると、まだまだ生産性、効率性は改善する余地があると感じていますので、その点からもぜひ見直していただきたいと思っています。以上です。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。それでは、市長、お願いします。

(福田市長)

ありがとうございます。この素案の分厚い資料の45ページを見ていただきたいのですが、絵が載ってますよね。今回の総合計画をビジュアル化したものなのですが、一番右下の誰もが生きがいを持てる市民自治の地域づくりというところの絵を見ていただきたいのですが、まちを好きな人が多いとまちはよくなる、まさにこの絵は、岡田さんや飯田さんがおっしゃっていたようなことをあらわしていると思うのです。自分たちの市のこと、住んでいるまちのことについて知るといのがまず第一歩ですね。知ってから何かに参加するなど、どんどんフェーズが上がっていきます。これがだんだん増えてくると、この川崎市がびかびかに、キラキラ感があったり断トツ

感があったり、そして、まさにシビックプライドが醸成されるわけです。ですから、そういうサイクルを回していかななくてはいけない。そのためには今までの伝える広報から、伝わる広報にということを繰り返し言って、少しずつではありますが、変えていっています。今年7月からの川崎市政だよりを大幅リニューアルしました。それは紙面構成や内容からも大きく変えています。市から伝えたいものをただがんがん言うのではなくて、どうやって伝わるのかという受け手側の目線で発信の仕方を考えています。先ほど加藤さんから、伝わる、伝えているというつもりでも伝わっていないというお話がありました。今回、昨年7月からこの1年間でいかに伝わっていないかということを繰り返し認識をしました。このことが大切で、私をはじめ、職員全体が今回の討議のプロセスでよくわかったと思いますので、それをしっかりと生かしていきたいと思っております。あと、飯田さんのおっしゃったOBパワーですね。昨日もある大学OBの交流会にお邪魔して、非常に皆さん元気なものですから、地域の寺子屋に寺子屋先生として参加していただけないかと誘ってきたのです。本当に魅力的な、才能を持ったOBの人たちがたくさんいるので、ぜひ力を貸してもらいたいし、その仕掛けづくりをやっていきたいと思っています。ありがとうございます。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。それでは続きまして、長谷川委員、お願いいたします。

(長谷川委員)

まず、市政についての要望ですが、とにかく今後の高齢化を見据えて、わかりやすい行政にさせていただきたいという点と、以前、有識者会議のメンバーの方に川崎在住の方が1人もいらっしやらなかったのもので、できれば半分くらい川崎在住の方を入れていただければ、より川崎の良さや川崎の思いが伝わって、いい感じになるのではないかと考えております。

あと、この会議に参加させていただいての感想ですが、当初、私自身、役所の方は話が通じない、難しいところがあると思いついてしまっておりました。申しわけありませんでした。今回、ご縁がありまして、このような会議に来させていただいて、市長も役所の方もそうですが、このような計画に関しても一生懸命取り組んでいただいて、休日の午前中、お疲れのところでしょうが、本当に川崎のために一生懸命なさっているというのを知る機会になったことが一番自分にとってはよかったかなと思います。

また、市民一人ひとりの声を聞くというのはとても大変なことかと思いますが、市民の声を市政に取り入れるということはとても大切なことだと思いますので、これからも続けていただければと思いますので、どうかよろしくお願いします。ありがとうございました。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。それでは、加藤委員、お願いいたします。

(加藤浩照委員)

加藤でございます。この会に参加させていただいて、本当に自分でも勉強になって、ありがた

かったと思っております。I l o v e川崎という感じが強い方がこんなに大勢集まって、本当に熱いなという感じでした。また、市長もとても熱い方だなということが改めてわかりました。ぜひ頑張ってください、この実現に向けて進んでいただければと思います。

このすばらしいバイブルを何としても市民の皆様に伝えるように、先ほど市政だよりで全戸に配るということもおっしゃっておられましたが、伝えるということは非常に難しいと思いますし、受け取るほうの力というのも本当に難しいと思います。例えば町内会の小さな単位にお示しするとか、学校の副読本として授業で取り入れるぐらいなことをして、一人ひとりが熱くなれば、川崎の温度も熱くなるのではないかなと思いますので、市民の中にも温度差があると思うし、南北の温度差もあると思います。そういう温度差をなくして、一人ひとりが輝けば川崎が輝くという方向に何としてももって行っていただければいいかなと思います。

また、ファシリテーターという存在を初めて知りましたが、非常に会議がスムーズに進んで、すごい仕事だなと思ひまして、これから自分たちの会議のときにも自分がそうなるかなと思ひました。どうも大変長いことありがとうございました。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。それでは、辻委員、お願いいたします。

(辻委員)

辻でございます。まずこの会議に参加させていただきまして、本当にありがとうございました。私は公募委員で宮前区から参加させていただきました。宮前区でいろいろな市民活動に参加しているのですが、集まってくる方は専業主婦か割と高齢の方ばかりで、市民活動している私たちは常に、どうしたら私たちではない人たちがこういうまちづくりに参加できるのだろうと。区民会議に行っても、まちづくり協議会に行っても、個々のいろいろなグループでも、皆さんそれが課題なのです。ところが、ここに来てみると、いつも私が関わっている方々と全然違う年齢層や背景の方がたくさんいらっしゃって、ちょっとびっくりしまして、何でこういうことになったのだろうと思うと、これは無作為抽出で行われたからだということがわかったのです。それで、もしかしたら、今までまちづくりに関わってこれなかった方もこの会を重ねるたびに皆さんがどんどん熱くなっていかれるのを感じて、皆さん、まちづくりに興味がないわけではなくて、ただ知らないのだと。まちづくりって実はおもしろいのだということを今回皆さんも、感じられたかもしれないと思い、そういう方が資源としてたくさん市の中に眠っていて、それは無作為抽出でしか掘り起こせないのかなというのが今回、すごく感じたところでした。本当にすばらしい計画をつくっていただいたと思いますので、これをたくさんの方にどうやって読んでもらえるのかなと考えています。いつも思うのが、市のホームページがあまりにもそっけないのです。あまり市民にフレンドリーではないのがすごく感じられます。下のほうに、このホームページはどうでしたかという、意見が書いてあるのですが、的確にやられているのかもしれないですが、フレンドリーではない感じがするのです。ほかの市のホームページを見ると、もっと楽しいのもあるので、工夫していただけるといいのかなと思います。

あともう1つだけ、この市民検討会議もOBパワーで何かできるのではないかなと少し感じて

おりました。本当にありがとうございました。

(磯崎コーディネーター)

重要なお指摘、いろいろありがとうございました。それでは、市長、よろしくお願いします。

(福田市長)

ありがとうございます。それぞれ、市民の声を市政にどうやって生かすかということですが、トライしていくしかないと思っています。例えば、区民車座集会をこの1年半ぐらい毎月区を回って、同じスタイルで2周したのですが、30人の定数のところ30人までいったのは多分2回ぐらいでした。一番少なかったのは4人ぐらいです。でも、とりあえずどんなに少なくてもやり続けて、今度の第3巡目は、各区、全部違うやり方でやってみようと考えています。やり方については各区から提案してもらい、全部ばらばらの7通りでやってみて、何度でも何通りでもチャレンジしてみて、それを繰り返して熟度を上げていこうと思っています。

このやり方がだめだったからもうやめてしまおうではなくて、どうやって市民の皆さんの声をいただくかということを考えていきますので、ぜひ皆さん、これだけ参加していただいて、思いがあると思いますので、これからも教えていただきたいなと思っています。

あと、市のホームページがフレンドリーではないと。これは大変失礼しました。市のホームページのアクセス件数はものすごく多いのです。どこに関心があるのかということ解析して、局単位にどういうページが見られているかというのを全部に局に返しています。それをまた反映させていくというサイクルになっています。ホームページも利用する側の視点に立ったフレンドリーなホームページづくりに、頑張っていきたいと思っています。ありがとうございました。

(磯崎コーディネーター)

よろしいでしょうか。それでは、長野委員、お願いいたします。

(長野委員)

今回の市民参加型の試みというのは非常に良かったと思います。市長の意志がすごく反映された、いいものになってきているのではないかと思います。自分自身も参加していて、非常に楽しかったです。私は無作為で抽出されて、それから手を挙げてここまで来たのですが、委員の一人ひとりの情熱がすごく高く、検討会で出たものも非常に鋭くて、実効性の高いもののがかなり出ています。川崎のポテンシャルの高さを改めて感じたし、自分がこれに対して何ができるかというのをもうちょっと深く考えなくてはと思いました。「市民から市民へのメッセージ」の中で、多世代が参加する地域コミュニティという形でまとめられています。ここが一番のポイントだと思っています。少ない公助で、よりアクティブな共助、互助を引き出すということが非常にポイントが高いと思っています。そのためには、この中にあるすごくいい意見を実際に実施計画に入れることが大事でPDCAサイクルを回して、磨き上げて、より実効性の高いものにして、満足の高いものにしていく必要があると思います。そこに対して、少なからずお手伝いが今後でもできたらなと思っています。私は学童ホールにかかわっていて、このホールを保育だけではなくて、

多世代のコミュニケーションの核にならないかということをお子さんの講演会で話したりしています。我々のコミュニティとうまくコラボレーションできたら、よりいい実施計画ができるのではないかと考えています。ぜひ低コストでスピーディーに、すぐできるような施策を一緒にお手伝いしたいと考えていますので、よろしくお願いします。どうもありがとうございました。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。では、小池委員、お願いします。

(小池委員)

多摩区の小池です。本当にありがとうございました。この構想の1番の文言を見るたびに、本当に市長や市の皆さんがご苦労を重ねられたのだとすごく実感しております。これは本当に大事に私も温めて、今後ずっと見守っていきたいと思っています。

感想を3つ述べさせていただきます。1つ目は、こういったことは初めての参加で、生き生きとした市長と市の皆様方のご尽力で体験できた喜びを本当に感じております。

この喜びを一人占めするのはもったいなくて、将来の子どもたちのために、世代ごとにぜひこの企画を展開していただけたら、絶対選挙の棄権はしないと、投票したくなると思うのです。

あと、有識者や地元のちょっと力を出したい方などが学校にかかわって、いろいろ解決しているということでもとてもいい方向で行っていると、先般、新聞で目にしましたので、この企画のシステムを、放課後の子どもたちにもいい影響があると思うので、どこかでまたこれが展開できたらなと思っています。あと3つ目は、今、私は町内で役員をやっていますが、実はこの会議が始まった去年のころから、うちの町内でも話し合いがありまして、1年間話し合って、回覧板廃止、町内会長は輪番制というふうに随分ドライになりました。もともとは五反田川の氾濫とかがあって、とても結びつきの強い町内だったのですが、やはり世代交代でそういうことになりました。誰かが負担になっていないかと臨機応変に変えていくことが大事だと思う一方、ここで伝わるということを生懸命討議して、そのギャップに私も心苦しく思いました。でも、こんないい経験をさせていただいて、とてもうれしく思います。皆様、どうもありがとうございました。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。それでは、山下委員、お願いします。

(山下博子委員)

私も問題意識を持った方々と深く話ができて、すごくいい機会だったと思います。

素案については、やっぱり総合計画というのは抽象的で実施計画まで見ていかないと具体的なことはわからないなと思ったのですが、皆さんで行動しましょうというメッセージはとても大事だと思うので、これはこれでいいかなというのが感想です。話し合う中で、一番大事なのが共助や互助、地域コミュニティをつくっていくことだと、私もそう思っていて、それをいかにつくっていくかというのが大変なところなのですが、そのためには地域包括ケアシステムとか町内会・自治会とか中学校単位とか、いろいろありますが、そういう仕組みをつくっていくためにも、市

の職員が地域に入って一緒につくるというのは、すごく大事だと思っています。それに応える地域の人たちがたくさんいるというのも大事で、サイレントマジョリティと言われますが、なかなかそのチャンネルがないだけで、何かきっかけがあったら、呼びかけたら、それに応えてくれる人は結構いるのではないかという実感は持っています。そういう意味でもこの会議はすごくいいなと思ったので、区の単位でできないかと思っています。これからも、特に区の役割強化とかにも着目して、どうやってつくっていいのかということを私も考えていきたいと思っています。ありがとうございました。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございます。それでは、市長、お願いします。

(福田市長)

共通しているのは、せっかくまとめてきたこの動きを、次の世代に、子どもさんたちにどうつなげていくか、どう教育していくかというのが、あらゆる場面で出てきて、ものすごく大事だと思っています。例えば中学校の副読本に地域包括ケアシステムについて、互助とは何か、支え合う意味などを教える簡単な副読本をつくらうとしています。地域づくりの素地として、つながり、絆をどうやってつくっていくか、その意味とは何かというのを子どものうちからしっかりと教えていく必要があると思います。そこを厚くしていかないと、私たちが一生懸命議論しても次が続かないということでは何にもならない。それこそ30年後の姿は悲惨なものになってしまいますので、そこに私たちは横串とか斜め串とかを刺して、やっていかななくてはいけないと思っています。

町内会長の引き受け手がなかなかいないというお話もありましたし、地域によってはすごく世代が高齢化しているところもありますし、理念だけではとても済まないようなそれぞれの地域ごとに難しい課題があって、一方で趣味の世界では非常によくつながっていたり、辻さんの話ではないですが、私たちのところには顔を出さないのだが、あっちには人がいるというようなこともあり、どういうふうに刺したらそこに刺さるのか、巻き込めるかというのを全力で研究していかなくてはいけないし、いろいろなアプローチを繰り返していかなくてはいけないのではないかなと思っています。いずれにしても、「市民から市民へのメッセージ」の一番大切なところ、多世代がどうつながっていくかということがこれからのまちづくりで一番重要なところで、それに向けて頑張っていきたいと思っているので、これからも力を貸してください。ありがとうございました。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。それでは、後本委員、お願いいたします。

(後本委員)

後本です。まず感想と、その後に素案についての意見を申したいと思います。

まず、この会議に出席させていただいて、川崎市のいいところも、課題も本当によくつかむことができたなと思います。あと、この会議自体が多世代交流ではないですが、ふだん、仕事との

行き来だけで、あまり多くの方とお話しする機会がなかったので、そこがすごく大きな収穫であったなと思います。もともと市がやられている会議とかに参加してみたいという意欲はあったので、広報もチェックしていたのですが、論文があって敷居が高いんですね。今回、運よく無作為で呼んでいただいて、すごくよかったなと思います。ぜひ基本構想、基本計画だけでなく、分野別の計画のほうも無作為抽出という方法を広げていただけたらいいのではないかと思います。あと、素案についての意見なのですが、非常に細かいことを申し上げるようで恐縮なのですが、障害者の方の「障害」という字に漢字が使われていて、これは平仮名にさせていただいたほうがよろしいのかなと思いました。あと、市民検討会議の市民へのメッセージのところなのですが、「我が国は」と使われているのですが、我が国という言葉は市民はあまり使わないのではないかなと思いました。以上です。1年間、ありがとうございました。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。それでは、加藤委員、お願いいたします。

(加藤美於委員)

麻生区の加藤です。私からは、会議を終えての感想と、今後の市政運営について少しだけ意見を言わせていただきます。知識や経験もすごく不足している私のような大学生でも、意見の言いやすい環境というか、いろいろな方にサポートしていただいて、1年と少し、このような会議に出させていただいて、とても勉強になりました。本当にありがとうございました。

せっかくこのような会議に参加させていただけたので、この経験を生かして、これからも市政にかかわるような機会をつくっていったらいいなと思っているのですが、主体的に動かなければならないのは私のほうだと思うのですが、何かその機会をつくるヒントみたいなものを提示していただけたらうれしいです。今後の市政運営についてですが、さっき辻さんも、まちづくりがおもしろいというのを知らない人がすごく多いとおっしゃっていたので、若い人がもっと市政のことを知れるような機会をつくってくださるとありがたいです。私が何か役に立っていたかわからないのですが、川崎のことをほとんど知らなかったのですが、とても勉強になったので、こういう機会に、もっと積極的に参加できたらいいなと思います。ありがとうございました。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。それでは、山下委員、お願いいたします。

(山下千裕委員)

山下です。私からは、感想と、それから今後について少しだけ提案をさせていただきたいと思います。今まで私は行政にあまり関心がなく、その決定について、小さな市民の意見はどうしようもないものかなと思っていたので、今回ランダムに選ばれて、この会議に参加するに当たっては、日程が合えばと若干無責任なスタートではあったのですが、参加してみて、この一市民の意見をとても細かいところまでちゃんと聞いて酌み取ってくださる、それから、市長という権限のある人も参加してくださり、これは何か私もできるのかもという思いで、スケジュールを再

優先にあけて、会議前には資料を読んで、自分なりに意見や疑問を持つようになりました。

深く川崎について考えるようになり、私が財政とか都市構造とか、そういうことまでに興味を持っていくこと、それからまた、ネットワークがすごく発達する中、この日曜の朝に実際顔を合わせて会議するということがすごく大切だということを私はすごく実感しました。意見を、熱意のある中で交えていくとエネルギーがすごく、すごく伝わるということがよくわかりました。その中で、私も多世代コミュニティの大切さに気づき、意見にも賛成しているのですが、実生活では地域とか多世代コミュニティとの交流は全くないという問題にも気づきました。現在、私のような市民は多分たくさんいると思います。また、私のように、きっかけがあったら、すごく深く考えていくという人もたくさんいるのではないかなと思いました。ましてや10年後、30年後の川崎をつくっていく世代だと思っていますので、これから興味を持つきっかけをつくっていただけたらなと思い、3点ほど提案です。学生とか学校の代表での市長さん交えての無作為抽出によるシンポジウムやテーマごと、世代別に分かれての会議もあつたらいいのではないかなと思います。何も考えないで生きている人が多いので、市の皆さんがその現場に入ったら、もっと見えてくるものが違うのではないのかなというのがもう1点。そして最後は、意見が反映されると、もっと自発的に興味を持ち、プライドと責任を持っていくと思うので、スピーディーに反映していただけたらと思います。会議を通して、市民と行政の皆さんとは考えている問題点や意見はほぼ一緒なのではないかなと思ひまして、新しいアイデアを市民の皆さんからたくさん取り入れて、それをスピーディーに反映させていただけたら、すごくうれしいです。私の仕事柄、人前とか世界に出ていくことが多いので、川崎のイメージアップにこれから貢献できたらと思います。ありがとうございました。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。私も一委員としてご意見をよろしいでしょうか。

今回、皆さんから大変よくまとめてくれたという評価でしたが、私は注文をつけておきたいなと思います。今回まとめていただいた総合計画素案は、確かに大変目配りの効いた、バランスのとれた文案になっていると思うのですが、2点あります。

1つは、この市民検討会議でいろいろなキーワードが出て、いろいろな視点も出ましたが、これが必ずしも十分に活かされていないのではないかとということです。例えば「自ら守る」とか、「若手・リーダー」、「元気な高齢者の出番づくり」とか、「伴走型」、「働くリアル」とか、「断トツ」、「キラキラ感」、こういったワードが出ていたのですが、先ほども久万課長からご説明があつたように、趣旨はまあまあ生かされていると思うのですが、言葉の魅力が失われていると思うのです。いわば、市民語が行政語に転換されていて、何かおもしろくない文章になっているように思います。正確だが、おもしろくない文章になっているなと思いますので、もうひと工夫していただけないかなと思います。市民検討会議のポイントをもう少し生かせるように、必要であれば私もアドバイスさせていただきます。

もう1つは、素案の文章が丸まってしまっていて、焦点がどこにあるかよくわからない、めり張りが効いていない面があるのではないかとということです。一例を挙げますと、素案とわれわれ検討会議の意見が比較されている資料5の2ページの上のほうですが、3行目までは防災につい

て現状を書いてあって、その次の行ですが、「かけがえのない市民の生命、財産を守るために、広域的な連携を図りながら」とありますが、「広域的な連携」とはどのような連携なのか、東京都と図るのか、横浜と図るのか、広域災害だともっと広く日本中を見て連携しなくてはいけないと思いますが、そういうイメージも示されないまま抽象的に「広域的な連携」と書いてあるだけです。それから「地域のリーダーや若者も含めた幅広い世代の市民や企業と力を合わせながら」とありますが、ちょっと丸まっていると思うのです。我々の提案としては、若手とかリーダーづくりが大事だと言いましたので、「も含めた」と言われると、丸まってしまって、付随的な内容になってしまっている。リーダーづくりという点をしっかり入れたり、若者に参加してもらうことがまさに目標であり眼目なのだということがわかるようにしていただけないかと思えます。そもそもこの文章は5行ぐらいありますが、これが1文になっていて、何がやりたいのかよくわからなくなっています。文章はできるだけ短く切って、力を入れているところは、「若者については何々への参加を促します」とか、「リーダーについては研修の場の設置などにより地域を支える力として活躍していただきます」とか、それぞれ言い切るような形でまとめていただくと、随分イメージが違ふし、我々の提案の趣旨も生かせるのかなと思います。個人的な意見でございました。

では、以上4名の意見につきまして、市長、コメントをお願いいたします。

(福田市長)

ありがとうございました。後本さんの話で、市民公募のときに論文の提出があって、結構ハードルが高いというお話がありまして、なるほどと思いました。今回一番よかったのは無作為抽出ですね。無作為抽出は初めての取組なので、いろいろ不安がありましたが、すごくよかったと思っています。課題によってはその関心を持っている人からご意見をいただいたほうがいいということもあるので、バランスよく組み合わせたいなと思っています。

特に加藤さんと山下さんお二人からは、若者の意見をどうやって吸い上げるかということでした。今回の選挙権が18歳になったということだけではないのですが、去年から高校生の提案をどうやって行政として受けとめるかということで、川崎市でバーチャルの高校生課みたいなものをつくったらどうかという提案を受けているのです。これは本当に課題で、自分たちの世界からは遠い世界で行政や政治に意見を言っても実現しないから無駄というサイクルを回してしまうからなのです。実現するというサイクルを回すことが、言って意味のあることなのだと実感になる。そのことが結果的に若者の参加を促し、投票率も上がるというサイクルにしていかななくてはいけないと思うので、それをしっかり考えていきたいなと思っています。加藤さんからも仲間とこういう提案ができるのか、こんなやり方があるのではないかというものがあったら、ぜひ教えてもらいたいと思います。今、子ども会の中で、大学生が中心になって、小学校の子どもたちの面倒を見る、リーダー役になるという方もいますので、ぜひ、私たちも研究しますし、加藤さんもまた教えてください。山下さんからの、学校別あるいはテーマ別で行って、そういうところにどんどん職員が入っていき、知るきっかけをつくるというのも大切だと思っています。先ほど申し上げた区民車座集会のやり方を、年齢層別に変えてみる、あるいはテーマを子育ての分野に限ってやるとか、いろいろなやり方があると思うので、そうやって巻き込み方を考えていきたい

と思っております。磯崎先生ですが、こういうコーディネーターを行政からお願いすると、大体行政側に立っている先生がつくというのが通例ではないかなと思うのですが、最後の最後まで、中立的な、フラットな形でやっていただいたということが、今回の成功の鍵だったと思います。今日、お集まりいただいている委員の方、有識者会議の方も、全員同じフラットな立場でやっていただいたというのが、一番よかったと思っています。私も市民検討会議に毎回出させていただきましたし、有識者会議も出させていただいて、会議でだんだん皆さんの熱量が上がっていくのを実感し、いい形になったのも磯崎先生、コーディネーターの役割がものすごく大きかったと思っておりますので、心から感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

(磯崎コーディネーター)

ありがとうございました。それでは皆さん、特につけ加えたいところはありませんでしょうか。小山さん、お願いします。

(小山委員)

今人口はとても多いのに、誰でも市役所に電話して、市の職員に物申せるではないですか。そうすると、市役所の人があまりにも忙し過ぎると思います。百万人以上もいて、誰でも市の職員と話せるのは、市の職員も負担ですし、仕事も時間かかってしまいます。よろしくお願いします。

(福田市長)

すごく気遣っていただいて、本当にありがとうございます。私ども基礎自治体は、県や国と違って、私たちの生活に最も密着している仕事をしていますので、そのことについて私たちは誇りを持って仕事をしています。1つには、説明が足りないということも大いにあると思います。知らされていないことによって怒るということがあると思います。ですから伝えるということにまず私たちは努力したいと思います。不満が起こる理由の一因を取り除くということを私たちは使命としてやっていかなくてはいけないと思っています。

(小山委員)

そういう人たちの声を一人ひとり、市役所の職員が聞いていたら、本当に税金の無駄遣いだし、時間がかかり過ぎてしまいます。

(磯崎コーディネーター)

確かにそういう面も実態としてはあるかと思えます。市が意見を聞かないというわけにはいかないと思いますが、むしろ市民の側が直接個別に言うのではなくて、地域ごとにいろいろできることはないかと考えた上で、市民皆さんの意見をまとめてから市に上げるという方法、作法みたいなものも身につけることが必要かなと思います。ありがとうございました。

それではここで検討会議を閉じたいと思います。最後、私から簡単にご挨拶を申し上げたいと思います。皆様、特に21名の委員の皆様に、この間、大変ご努力をいただき、大変熱心にご討議いただきました。今日も全員にご出席いただきましたし、先ほどからご意見をずっとお聞きして

いると、いろいろな経験や思いの中でご参加いただいたのだなということを実感いたしました。グループワークでも非常に的確なご意見、ご提案をいただいて、それがベースになって、こういうまとめができたと思っております。これらの成果は、委員の皆さんのご尽力の賜物だと思いません。改めて感謝をしたいと思います。

また、市長及び市の事務局におかれましても、この間、大変なご努力をいただきました。先ほどの素案のイラストも市長のご提案と聞いておりますが、福田市長には、この会議にも毎回出てきていただきました。私もいろいろな自治体に関与していますが、大体、市長というのは最初にご挨拶して、「この後、所用がありますから」と言って退席されるのが通例ですし、発言しても、総花的な話で終わることが多いのですが、福田市長は大変かみ合ったご説明をしていただきました。そういう意味で本当に双方向のやりとりができたことが、この会議のすばらしいところだったのではないかと思います。また、事務局にも大変きめ細かい対応をしていただきました。毎回の膨大な資料をまとめるのは大変な力量であり、大変なご努力だったと思えますし、毎回の議事録も写真を入れてビジュアルにまとめるなど、工夫していただきました。今後も、今日の各委員から出されたご意見も踏まえて、いい総合計画に仕上げていくようお願いしたいし、期待したいと思っております。

私自身も地方自治を勉強しておりますので、この総合計画の進展については注目していきたいと思っております。いずれ磯崎ゼミの学生たちを連れて、先ほどお話のあったP D C Aがどのように回っているかも、勉強させていただければありがたいと思っております。そういう意味では、私自身、この検討会議では大変勉強になりましたし、いい経験をさせていただきました。大変拙いコーディネーターではございましたが、皆様のご協力のもとで、とてもいい形になったのではないかと思います。改めて皆様に感謝したいと思います。ありがとうございました。

閉会

(司会 唐仁原都市経営部長)

磯崎先生、それから委員の皆様、本日は本当に長い時間にわたりまして、活発なご意見をいただきまして、ありがとうございました。

以上をもちまして、総合計画市民検討会議第5回全体会を終了いたします。本日は大変ありがとうございました。

以 上